

令和4年度 各部・年次等の目標と実践項目 評価まとめ

【評価】 4:よくできた 3:できた
2:あまりできなかった 1:できなかった

部署	主な業務	本年度の目標	目標達成に向けた実践項目	番号	数値目標	中間評価(各部署内)		年度末評価	次年度に向けて
						評価	改善に向けて		
総務 国際	行事検討・計画・運営 防災計画作成 校内美化・整備 入学のしおりなど諸文書作成	教育環境の整備 防災意識の向上	1 効果的な行事の計画、調整、実施	T		3.5	事前調整が必要	3.3	・行事等については、生徒の実態や社会情勢、コロナ対策に応じて積極的に見直す雰囲気が出てきて前進した部分はある。学校全体の方針に沿って変更、改革できる流れが大事だと感じた。 ・校内美化の意識を高める仕組・努力・指導の成果が少しずつ出てきた。今後も継続したい。 ・国際交流はコロナのこともあり、出来ることが限られていた。限られた中でもPTAの協力もあってEIPを実施することができた。海外への短期語学研修は全て中止。
			2 各種防災訓練の実施	P	年間2回	3.5	より現実に近い訓練の意識をもって取り組む事前準備が必要	3.4	
			3 日常清掃からの校内美化活動の推進 学期毎、式典前大掃除、校舎内外の清掃	L	年間3回(各学期1回)	3.5	細かな部分を徹底させる	3.2	
	4 国内で実施可能な英語研修を充実させる	G	年間2回		語学研修コトケのため中止 EIPは人数不足のため変更実施予定	2.8			
教務	観点別評価への移行 校務支援システム運用 ICTを活用した授業の推進	観点別評価の変更	1 45回生の観点別評価計画を立てる	S	6月末までに作成完了	3.5	評価規準を完成する	3.2	・新教育課程の円滑な実施に向けて、観点別学習状況の評価を行うための評価基準を作成する。 ・各教科・総合的な探究の時間等でiPadを活用できる環境を整備していく。
		ICT活用指導力の向上	2 タブレット端末を用いた授業を推進する	T	45回生の授業のうち30%以上iPadを利用する	3.0	iPadを活用した授業を積極的に取り入れていく	3.3	
保健・生徒指導	生活指導・交通安全指導 「くすのき」での周知 いじめ防止・対応 生徒会活動の充実 部活動活性化	いきいきとした規律ある学校生活の支援とサポートが必要な生徒への対応	1 生活習慣の確立と校内規程の見直し	P	交通安全指導4回 事故件数0	3.5	交通安全指導2回 交通事故件数 2件(6/28)	3.3	・安心・安全の教育活動を充実させるため、教職員間の意思疎通を図り、生徒・保護者から信頼される指導を心がける。 ・キャンパスカウンセラーとの連携を図りながら、生徒の不安が大きくならないうちにサポートできるように努める。
			2 様々な問題や多様化する生徒に対して、教師の共通理解と指導体制の検討	L	いじめアンケート1回 いじめ件数0 教員研修会2回	3.0	いじめアンケートは毎月実施 いじめ事案は0件 研修会は未定	3.0	
			3 「心のサポート」や「感染症」に関する情報提供と対応	L	キャンパスカウンセラーと昨年以上の連携	3.5	「保健だより」やカウンセリングで生徒に寄り添ったサポートができています	3.2	
ガイダンス	進路情報提供 進路研修(教員) 進路講演会等運営 社会人基礎力育成 「進路通信」発行 「ガイダンスブック」発行	年次団と連携した進路実現のための効果的な進路指導体制の確立	1 3年次生の不安や焦りに対する適切なケアと、それに対応する教員向け研修会や検討会の実施	M	随時 研修会・検討会年5回	3.0	研修会を実施し、面談に備える	3.3	・変化の激しい「大学入試制度」に対し、「Classi」等を活用して、最新の情報を定期的に生徒・保護者に提供していく。 ・「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の育成に対応した、きめ細かい指導の充実を図る。
			2 進路通信を発行し、Classiで配信し、生徒・保護者への情報提供や進路意識の向上に努めるとともに、高校生就労体験事業を通じて社会人としての資質・能力を育成する	L	進路通信:年7回以上 就労体験事業:生徒の満足度80%以上	3.0	進路実現に向け、さらにきめの細かい指導を心がける	3.5	
			3 総合的な探究の時間の計画を立て、実践する	S	発表の場を2回設ける	3.5	探求発表会を実施	3.5	
図書 人権	蔵書の整理・拡充 朗読会等行事企画・運営 「学校図書館だより(NORTHLIBRARY)」発行 読書感想文コンクールへの出品 ウェルネスパーク図書館との連携	図書委員会を活性化し、開かれた図書館となることで読書活動を推進する	1 校内では、ビブリオバトル校内大会や朗読会を実施しつつ、校外で、加古川ウェルネスパーク図書館との連携活動を積極的に行う	L	朗読会:1回 レファレンス大会:2回 ビブリオバトル:2回	3.5	ビブリオバトルは高いレベルが多かった。お話し参加希望者も順調に集まっている。	3.8	・生徒主体の活動を継続し、来年度さらに多くの生徒が活用したい図書室作りを目指す。 ・職員対象の人権研修会や人権映画鑑賞会を企画することにより様々な分野における人権意識の向上を図りたい。
			2 「NORTHLIBRARY」を図書館だよりとして生徒配布し、クワッパで保護者にも報告、案内するなど、風通しのよい図書館を目指す	S	年間10回	3.0	発行日に間に合わないものがあつたので齟齬がないようチェックしていきたい	3.8	
	3 人権HRや人権映画会の内容を充実させ、計画的に実施	P	人権HR:年2回 人権映画会:1回	3.0	研修会での意見を受けて、若干の内容変更を行い実施した	3.4			
	4 全教員対象に人権教育群研修会を実施	T	年1回	3.0	3年次の群研修のみ実施。部の先生方からも貴重な意見をいただいた	3.4			
募集 広報	オープンスクール、オープン・ハイスクール運営 学校説明会訪問 「学校案内」作成 「加古北タイムス」発行 学校HP刷新	募集活動と広報活動の充実を図り、受験者数のアップを目指す	1 積極的な学校説明会(塾・予備校含む)への参加	L	年間10回以上	3.0	中学校や塾に向けてより積極的にアプローチしていきたい	3.5	・積極的に学校説明会等への参加を行い、加古北の良さをアピールする。 ・HPの更新を日々行い、加古北の日常を発信することによって、受験者増につなげていきたい。
			2 「加古北タイムス」の発行 学校HPのリアルタイムな更新	L	年間12回以上 年間250回以上	3.5	今以上にタイムリーな発信を心がけたい	3.5	

「番号」(S~T)の学校経営方針とその内容

S:「生きる力」を育み、生徒一人ひとりの能力を最大限伸ばす「学び」の場の構築

- ア ICTを効果的に活用し、わかる喜びを大切にしたいきめ細やかな指導
- イ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の促進
- ウ 多様な価値観を持つ人々と「協働して主体的に学びに向かう態度」を涵養するための授業づくり
- エ 情報収集力や感性を養うための読書活動を支える学校図書館の活性化と情報活用能力の育成

M:変化の激しい社会の中で、主体的に人生を切り拓き、生涯にわたって挑戦し続ける人材の育成

- ア 職場体験活動・大学研究等を通じて将来の生き方や働き方を見つめるキャリア教育の推進
- イ 多様な他者の考えや立場を理解し、他者と協力・協働して社会に貢献しようとする意識の涵養
- ウ 政治的教養を高め、社会に主体的に関わろうとする意欲・態度の育成

G:国際的視野で思考・判断し、世界に雄飛する人材の育成

- ア 外国語を用いたふれあいや対話、討論の機会の充実による豊かな語学力やチャレンジ精神の育成
- イ 留学生の招致や生徒の海外留学を通じた異文化理解・日本文化の紹介
- ウ 将来、国際社会で活躍・貢献する意欲・態度の育成を目指した行事の充実

P:思いやりの心と規範意識を持ち、共生社会の実現を目指す人間性豊かな人材の育成

- ア 自己をかけたがえのない価値ある存在として受け止める自尊感情の涵養
- イ 自他の個性・人権を尊重し、よりよい人間関係を形成しようとする豊かな集団づくり
- ウ 自らの命を守り、緊急時に主体的に行動できる人材の育成

L:地域と連携した安心・安全な学校づくりと学校評価の推進

- ア 学校全体による情報共有と協働して課題解決に向かう組織づくり
- イ 家庭・地域・中学校等への積極的な情報発信と連携した教育活動の展開
- ウ 学校評価の検証と学校改善による組織の活性化の推進

T:教職員の資質向上

- ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた計画的な職員研修の実施
- イ タブレット末端をはじめICT機器を効果的に活用した授業づくりを目指す職員研修と実践
- ウ 教職員の心身の健康と適正な勤務時間の維持により意欲を持って職務に取り組める職場環境づくり

【評価】 4:よくできた 3:できた 2:あまりできなかった 1:できなかった

部署	主な業務	本年度の目標	目標達成に向けた実践項目	番号	数値目標	中間評価(各部署長)		年度末評価	次年度に向けて		
						評価	改善に向けて				
1年次	学習・進路 家庭学習習慣の定着 進路情報提供 面談(二者・三者)	GIGAスクール構想等により整備されたICT環境を適切に活用し、学習活動の充実を図る	1	タブレット端末をはじめICT機器を効果的に活用した授業づくりを目指す	T		3.0	タブレット導入が当初予定から遅れたが、軌道に乗りつつある	3.6	・ICT機器を活用して、主体的・対話的授業の実践に向けて、スキルアップを図っていききたい。その運用にあたり、校内ネットワークなど教育環境の整備をお願いしたい。 ・ICT機器を利用して、随時更新される進路情報をスピーディーに提供するとともに、一方では対面形式での面談の機会を捉えて、生徒とのコミュニケーションを深めていききたい。 ・3年間続いたコロナ禍の生活もようやく終息を迎えつつある中で、生徒主体のアクティブな活動の機会を拡大していききたい。 ・友人に対する心や思いを、心遣いや思いやりなど積極的な行為で実践できるように呼びかけていききたい。	
			2	二者・三者面談では、ICTを用いて進路情報を発信する	M	二者面談は学期1回以上	3.0	入学当初から生徒及び保護者に対して丁寧な指導を行っている			3.4
	生活等 基本的な生活習慣の確立 いじめ防止・対応	北高生として誇りを持ち、社会に羽ばたく人材の育成	3	学校行事や部活動、生徒会活動に積極的に参加できる生徒を育てる	P	生徒が主体的になって企画実行する行事を年間2回以上	3.5	コロナ禍における久しぶりの学校行事であった文化祭でよく頑張った	3.3		
			4	明るく元気な挨拶、いじめは絶対しないなど他人への気配り、配慮を呼びかける	P	年次集会は学期に1回以上	4.0	挨拶の励行、級友に対する気配りが出来つつある	3.6		
2年次	学習・進路 授業改善 週末課題・小テスト実施 面談(二者・三者)	それぞれの進路に応じた適切な学習指導と生徒に寄り添った指導	1	できるだけ早い時期に具体的な進路目標を決定させ、主体的に学ぼうとする意欲を育てる	S	二者面談を学期1回以上実施	3.5	面談を通して少しずつではあるが意欲が高まってきた	3.4	・志望理由書についての講演会やホームルームで実施したことを、各自のさらなる進路意識の向上につなげていききたい。 ・まだまだ家庭学習の時間確保が少ない生徒もいる。年次全体で進路に向けて取り組む姿勢を作っていききたい。 ・体育大会、修学旅行を通して、中心年次の自覚や、自他を尊重する気持ちが育ってきたように感じる。北高の3年次として立派に成長していくのをサポートしていききたい。	
			2	授業を大切にしたいうえで、家庭学習時間をさらに確保し、英数国を中心とした基礎学力を固める	S	2時間以上の家庭学習時間	3.0	家庭学習の時間の確保がなかなかできなかった			3.3
	生活等 基本的な生活週間確立 いじめ防止・対応	自他の個性を尊重し、よりよい人間関係を形成しようとする集団をつくる	3	学校の中心年次としての自覚を持ち、自他を尊重し、様々な活動に積極的に参加できる生徒を育てる	P		3.0	さらに積極的な姿勢を見せられるように教師側からのサポートをしていく	3.5		
			4	生徒主体(企画・運営)の年次行事の実施	P	学期に1回以上			3.6		
3年次	学習・進路 充実した授業 進路に応じた指導 面談(二者・三者)	きめ細やかな学習指導の充実	1	少人数指導や習熟の程度に応じた指導により、知識・技能の定着を図る	S	定期考査前に補習を行う	3.5	進路実現に向け、さらにきめの細かい指導を心がける	3.4	・次年度に向けてはありません。 ・定期考査前の補習は、教科にもよるがおおむね必要生徒に対応できた。 ・担任は面談以外でも声かけできた。	
			2	生徒・保護者との人間関係の構築	P	個人面談学期に1回以上実施	3.5	担任の面談に頼りがちだが、複数の教師が声をかけていくようにする			3.7
事務室	電話・来客等の応対 サービス等の事務処理 予算の管理・執行 施設、物品等の維持管理	相手の立場に立った応対や経費節減に努める	1	受付窓口、電話での迅速で気持ちの良い応対	L	電話口3コールまでの対応	4.0	自動応答システム導入より、さらに迅速に対応できるようになった	3.6	・来客者に対する受付窓口、電話とも迅速な対応ができている。電話機の自動音声応答システムの導入により、より効率的な受付ができおり、今後とも利便性の向上を図っていく。 ・また、予算の適切な配分を考慮しながら、光熱水費の管理や敷地内の整備等について状況に応じた対応を行っていく。	
			2	感染症対策を進めるとともに光熱水費の適切な節減に努める	L		2.5	感染症対策と光熱水費値上げの中で節減に努めている			3.4
学校全体として			1	校訓に基づく教育活動の実施と、生徒の自覚の高まり	M	学校生活における生徒の満足度80%以上			3.1	・「学校評価アンケート」(対生徒)における「本校の行事や部活動についての満足度」について、回答者の90%以上が肯定的評価(大変そうだ、まあそうだ)をしており、生徒は一定の満足感を得られたと考える。	
			2	地域との関わりや福祉施設への訪問、手伝い、交流を通じた自己有用感の育成	P	年2回以上				3.2	・地域との交流が殆どできなかった。今後はコロナ対策を講じながら実施可能な取組を考えたい。
			3	加古北イングリッシュイマージョンプログラム(EIP)等を通じた国際感覚の育成	G	年1回以上の国際交流行事の実施				2.9	・一昨年度から始めた「Intercultural Day」(1年次対象 3月校内で実施)、語学研修の代替行事としてのEIP(全学年対象 8月校内で実施)を含め、国際感覚を育成する取組を、さらに積極的に行う。